



全日本にキリストの光を

Christ's Light to All of Japan

2020年8月12日

日本バプテスト連盟
加盟教会・伝道所の皆さま

日本バプテスト連盟
常務理事 中田義直

新型コロナウイルス感染の再拡大を受けて

主イエス・キリストのみ名を賛美いたします。

3月以降に日本中で巻き起こっているコロナ危機の中であって、私たちの生活や人との関わり方、常識といったものは大きく変化しました。諸教会・伝道所におかれましても、礼拝をはじめとする教会の活動において、感染防止のために会堂の消毒や来会者の手指消毒に留まらず、密を避けるために会堂で集まることを休止したり、インターネットを通じた礼拝のネット配信やネット会議に新たに組み込むなど、教会や礼拝を安心・安全な場とするための様々な対策を講じておられることと思います。

さて、7月後半からは首都圏のみならず、全国各地で新型コロナウイルスの感染が再び拡がり、深刻な事態となりつつあります。諸教会・伝道所におかれましても、ようやく会堂での礼拝を再開し、教会員や来会者との一堂に会した交わりを喜んでおられる教会も少なくないと思われます。けれども、この感染再拡大の事態を受け、今一度、執事・役員会等で対応について慎重に協議していただきますようお願いいたします。

もちろん、3月以降これまでの間において「感染予防」と「教会の礼拝共同体としての交わりや繋がり」をどう両立させ、地域への証しを立てていくかについて、それぞれの教会が苦悩しながらも、工夫をし、選び取りをされてきていることと思います。礼拝プログラムや説教要約、さらに教会や教会員の近況について紙面やメールを通じて教会員と共有するなどの取り組み、また礼拝をネット配信するにあたっては、その配信の対象によって、内容における個人名や著作物の発信の仕方を考慮するなどに加えて、会堂に集まっている人たちとネットで礼拝に繋がっている人たちとの間に情報の格差などが起こらない工夫をされていることをうかがっております。また、「集まる」という選び取りをする際には、掲示板に教会の感染予防対策を明示し地域の方々への理解を得られるよう、また、集まる方々に安心していただくための配慮をされている事例もあるようです。

しかしながら、7月以降の全国における感染拡大は4月の緊急事態宣言発出時よりも深刻さを増しており、他教団の教会ではクラスターの発生も報告されています。今一度、教会としての感染予防対策について再確認をし、万が一感染が起きた場合の対応等についてあらかじめ教会内で協議し備えておく必要があるのではないのでしょうか。

ところで連盟事務所では、4月から実施していた出勤制限を6月以降緩和する方向に進んでおりましたが、8月に入り再び強化しております。そのため、諸教会・伝道所の皆さまにはご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご容赦ください。また問い合わせ等に関しては、事務所にお電話を頂いても担当者が不在の場合もありますので、緊急な場合を除き、できるだけ担当者のアドレスまでメールにてお問い合わせ頂きますよう、ご協力をお願い致します。

新型コロナウイルスによって苦しみを受けておられる方々、不安の中に置かれている方々、また近い人と共に過ごすことさえままならない人たちの上に、主の豊かな伴いと慰めがありますように。また、こうした事態の中において、懸命に福音宣教の働きを担われている諸教会・伝道所が、主であって豊かに守られ、導かれますようお祈りしています。

主であって